



西脇 親 議員
(創政会・加西市民の会)

今後の市政運営について



問 市長は歩く広告塔ではないかと考えるが、発信方法を何か検討されているのか。

答 各種会合等に可能な限り出席しており、その時々にお知らせすべき施策について、顔を見ながら自分の言葉で話し、思いを伝え、意見交換をして、市民の思いを聞くようにしています。

問 プロモーションの取り組みはどうなっているのか。

答 ふるさと振興課では、YouTube動画を広告として流したり、住宅展示場や移住相談

会において、イーナカサイ等の冊子を配布しています。また、市職員の名刺の裏面に、市内の風景等をデザインして、PRに努めています。市民へのプロモーションは、広報紙、公式LINE等のデジタル媒体を通じて、市民の活躍や各種団体への取組、市の施策等を発信しています。

問 加西市は、このままで十分と考えているのか、不足しているものはないのか。

答 現状ではお金をかけない形でのプロモーション活動は、各担当で行っていますが、これらでのプロモーション活動は、どこまで行えば十分といった判断が難しいです。

問 市長の目指すまちづくりを進めるための最終的な目標

は何なのか。どのような形、スタンスで進める予定なのか。

答 (市長) 総合的な魅力を高めることが一番重要です。負担軽減も非常に重要ですが、やはり積極的な投資、効果の蓄積できるような投資というのは必要です。投資とはハードばかり思われがちですが、決してそうではなく、ソフト面の投資が非常に重要です。より充実した社会をつくっていく方向性で諸施策に取り組んでいきたいと思っています。

■その他の質問項目

- ・人口減少・少子高齢化社会における地方行政の役割について
- ・移住対策について
- ・支え合う地域づくりを地域コミュニティにどのように活かすのか



深田 照明 議員
(加西市民クラブ)

児童生徒のスマホ依存と対応について



問 依存による成績不振、体調不良や不登校などが疑われた事例は。

答 (教育長) 具体的な報告はありませんが、アンケート調査でインターネットやゲームをしないと落ち着かないといった回答はあります。

問 スマホ所持率や利用時間・視聴内容の把握は。

答 (教育長) 毎年秋にアンケート調査で所持率やSNS・ゲーム動画の視聴時間・内容を確認しています。所持率はゲーム機等も含めて、小学1年生の段階で

30%、小学6年生で80%、中学3年生で90%になっています。利用時間は中学2年生が平均で最も多く、平日で2.5時間、休日4時間程度で中には休日6時間以上という生徒も14%程度います。内容はYouTubeなどの動画視聴時間が最も長く、ついでSNS、ゲームの順となっています。

問 SNS等で知り合った人とのトラブルなどの問題は。

答 (教育長) 普段つながりの無い人とのメッセージや写真のやりとり、出会った経験、高額なゲーム課金やネットショッピングなどを実際に体験したという回答が複数あり、無記名アンケート回答なので直接対応できず心配しています。

問 スマホ依存とトラブルを防ぐ対策は。

答 (教育長) 基本的には家庭でのルールづくりが大切ですが、教育委員会は保護者対象の情報モラル教室を学校で開催し、利用方法やフィルタリングの必要性等などの啓発、市民対象の研修会開催やアンケート内容と対応策をまとめたリーフレットを配布して対策を強めています。子ども達には授業でSNS情報の良し悪しを自分で判断し、トラブルに巻き込まれないようにする能力向上を図っています。今後も読解力向上を目指すリーディングスキルトレーニング教育なども活用しながら対応してまいります。

■その他の質問項目

- ・子ども発達相談について
- ・放課後等デイサービスの現状について